

「未来に残したい草原の里 100 選」 第 2 回選定地域が決まりました

- 美しい草原の風景を残す地域を 100 選として選ぶ国内初の取り組みで、2022 年 3 月の第 1 回の選定では、34 箇所の草原の里が選定されました。
- 2023 年 3 月に第 2 回の選定があり、全国から新たに 14 箇所が選定されました。
- 選考委員会は、湯本貴和京都大学名誉教授（委員長）、養老孟司氏などからなります。

● 草原がつくる風景は広々として心地よく、どこか懐かしい気持ちになります。かつて草原は、茅葺き屋根の材料を得たり牛馬を放したりと、日本の暮らしを支える存在でしたが、今では国土の 1%にまで激減しました。一方近年では、観光資源として優れ、多くの希少動植物が暮らすなど、多様な価値が見直されています。こうした草原の維持活用には、人の営みが不可欠であることが特徴と言えます。

● そこで、「全国草原の里市町村連絡協議会」（会長：中村義明小谷村長）では、全国に残る草原とその里に光を当て、人と自然の関わりの中で培われてきた知識や技術、人々の想いを共有し、次世代へ受け継ぐため、国内初となる「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を開始しました。2022 年 3 月に第 1 回目の選定を行い、全国から 34 箇所の草原の里が選定されました。



未来に残したい
草原の里
100選

● 2022 年秋より第 2 回目の募集を始め、2023 年 3 月に複数の有識者からなる選考委員会（委員長：湯本貴和京都大学名誉教授）において、全国 14 箇所の地域が、「未来に残したい草原の里 100 選」として新たに選定されました。



● 2 回の選定を経て、「草原の里」の総数は 48 箇所となりました。

■ 本リリースに関するお問合せ

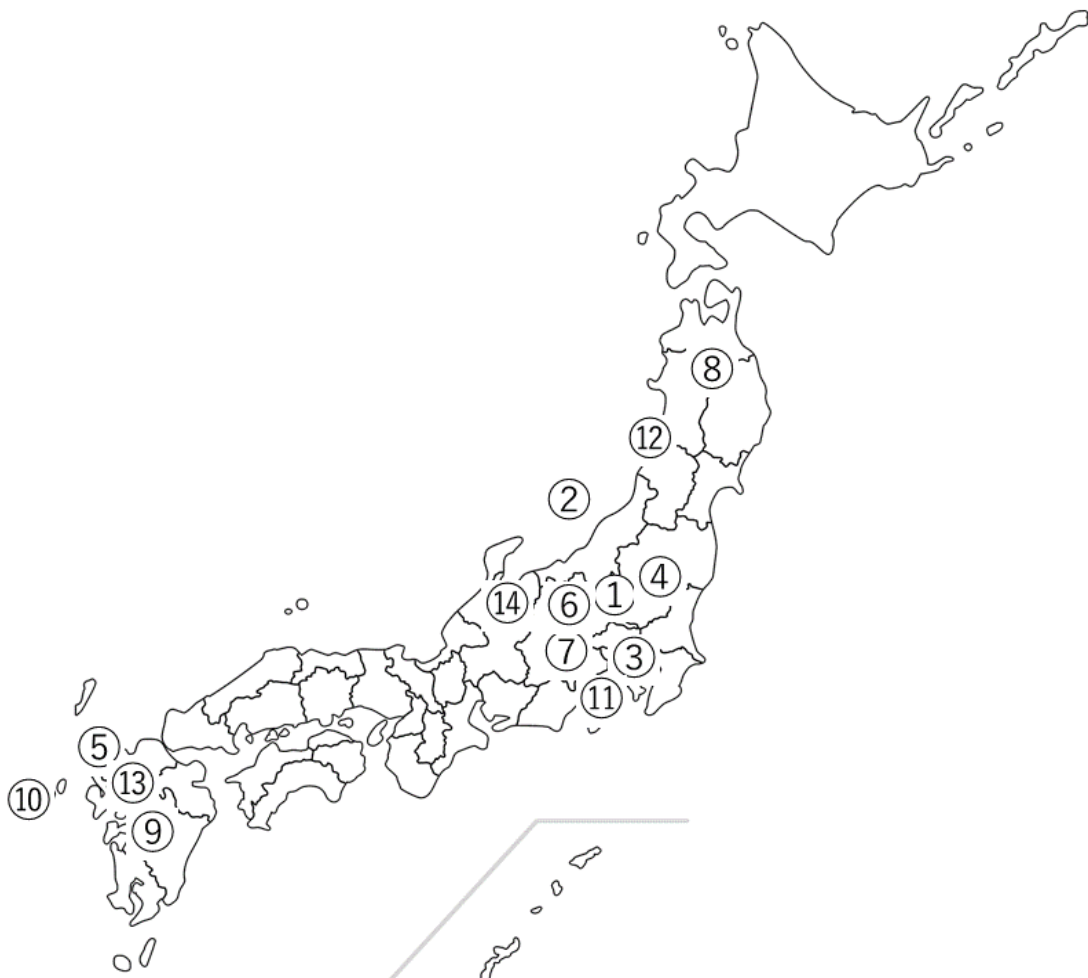
全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：丸山・澁谷

〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村大字中小谷丙 131 小谷村教育委員会 社会教育係

Tel: 0261-82-2587 Email: sogen100@sogen-net.jp メールアドレスへのご連絡を推奨しています。

＜資料 1＞ 今回選定された「未来に残したい草原の里 100 選」の名称および位置

番号	草原の里名称	所在市町村
1	利根沼田自然を愛する会(とねぬまたしぜんをあいするかい)	群馬県沼田市
2	ドンデン高原(どんでんこうげん)	新潟県佐渡市
3	田島ヶ原サクラソウ自生地(たじまがはらさくらそうじせいち)	埼玉県さいたま市
4	鋏山(はさみやま)	福島県南会津町
5	中瀬草原(なかぜそうげん)	長崎県平戸市
6	菅平高原・峰の原高原(すがだいらこうげん・みねのはらこうげん)	長野県上田市、須坂市
7	霧ヶ峰(きりがみね)	長野県諏訪市、茅野市、下諏訪町
8	八幡平市 安比高原ふるさと倶楽部(はちまんたいし あっぴこうげんふるさとくらぶ)	岩手県八幡平市
9	西原村(にしはらむら)	熊本県西原村
10	五島・鬼岳(ごとう・おにだけ)	長崎県五島市
11	箱根の仙石原(はこねのせんごくはら)	神奈川県箱根町
12	冬師湿原(とうししつげん)	秋田県にかほ市
13	城と翁とスキーの基山の草原(しろとおきなあとすきーのきざんのそうげん)	佐賀県基山町
14	相倉(あいのくら)	富山県南砺市



<資料 2> 選定地と応募団体

番号	都道府県	草原の里名称	応募者（団体）の名称
1	群馬県	とねぬまたしぜん あい かい 利根沼田自然を愛する会	利根沼田自然を愛する会
2	新潟県	こうげん ドンデン高原	ドンデンの自然を考える会
3	埼玉県	たじまがはら じせいち 田島ヶ原サクラソウ自生地	さいたま市
4	福島県	はさみやま 鋏山	とうにゅうく 南会津町藤生区
5	長崎県	なかぜそうげん 中瀬草原	株式会社 中瀬草原キャンプ場
6	長野県	すがだいらこうげん・みねのはらこうげん 菅平高原・峰の原高原	根子岳・四阿山保全協議会
7	長野県	きりがみね 霧ヶ峰	霧ヶ峰自然環境保全協議会
8	岩手県	はちまんたいし あっぴこうげん くらぶ 八幡平市 安比高原ふるさと倶楽部	安比高原ふるさと倶楽部
9	熊本県	にしはらむら 西原村	西原村
10	長崎県	ごとう おにだけ 五島・鬼岳	五島市
11	神奈川県	はこね せんごくはら 箱根の仙石原	箱根町
12	秋田県	とうししつげん 冬師湿原	冬師牧野農業協同組合
13	佐賀県	しろ おきな きざん そうげん 城と翁とスキーの基山の草原	オール基山の会
14	富山県	あいのくら 相倉	相倉史跡保存顕彰会

〈資料3〉 未来に残したい草原の里 100 選について

趣旨

かつて、日本の暮らしは草原によって支えられてきました。縄文時代から建築物に茅が使われはじめ、農耕が始まってからは、肥料や敷草、堆きゅう肥の材料として、また、物資の運搬や耕耘などの作業を担う牛や馬の飼料として草が必要でした。ワラビやゼンマイなどの食物、衣料としての苧麻（カラムシ、チョマ）、センブリやオトギリソウなどの薬草を得る場として、あらゆる面で草原の恵みを受けながら、暮らしが営まれてきました。限られた土地の中で資源を最大限に活用するため、草原を利用するルールや火入れ（山焼きや野焼きなど）の技術が日本各地で生み出され、引き継がれてきました。草原と共にある暮らしはさらに、秋の七草を愛で、盆には草花を備えるなど、豊かな心情や文化も醸成してきました。

しかし、高度経済成長期以降、草原は国土の 1%にまで激減しています。

失われつつある草原の自然と人々の営みをめぐって議論を重ねる中で、草原のある里で育まれてきた「過去のものと思われていた」技術や知恵こそが、これからの持続可能な社会を実現する上で欠かせないものであることが分かってきました。そこで、2018 年 7 月 4 日に、全国 23 自治体の首長が組織する「全国草原の里市町村連絡協議会（連絡協議会）」は環境省に「全国草原の里 100 選」の検討を進めていくことについて要望書を提出し、連絡協議会として選定事業を推進しています。

「共創資産」を引き継ぐ

地域における草原と向き合い方は、人々の草原への働きかけと草原からのフィードバックが繰り返されることで、経験的に紡がれてきたものです。人と自然との長年にわたるやり取りにより地域に蓄積された知識・意識・技術、それこそが草原の里が持つ価値です。この価値あるものを「共創資産」と捉えました。日本各地の草原の里にはそれぞれに共創資産が残されているはずで、各地に残る「共創資産」を日本全体で共有し、活用していくことで、次世代に希望のある自然共生型社会をつくるのが「未来に残したい草原の里 100 選」を実施する目的です。

選定の視点

草原の生態系と人々が暮らす里との関係性が作りだした「共創資産」を軸に、以下の観点から選考を行います。

- (1) 生物多様性の保全
- (2) 草原を維持するしくみや、価値を享受するしくみ
- (3) 草原に対する思いの強さ
- (4) 共生型社会の実現に向けた波及効果（ロールモデルとしての期待）

未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会：

委員長 湯本貴和（京都大学名誉教授）および学識者等の有識者によって構成 <資料4>

主 催：全国草原の里市町村連絡協議会

後 援：環境省、農林水産省

協 力：日本自然保護協会、日本茅葺き文化協会、全国草原再生ネットワーク

＜資料4＞ 未来に残したい草原の里 100 選 選考委員会名簿

(委員長)

湯本 貴和 京都大学名誉教授、中部大学客員教授、京都芸術大学客員教授

(委員)

安藤 邦廣 筑波大学名誉教授、一般社団法人日本茅葺き文化協会代表理事

岩井 茂樹 全国草原の里市町村連絡協議会会長、東伊豆町長

河野 博子 ジャーナリスト、一般財団法人自然環境研究センター理事

高橋 佳孝 一般社団法人全国草原再生ネットワーク代表理事

長沢 裕 タレント、公益財団法人日本環境教育フォーラム理事

町田 怜子 東京農業大学教授

養老 孟司 東京大学名誉教授

(2023年3月30日時点、敬称略、五十音順)

＜資料5＞ 今後の予定

2023年秋頃 認定書授与式・選定記念フォーラム
未来に残したい日本の草原 2023（仮称）冊子の作成・公表
第三次選定の公募開始

2024年春頃 第三次選定

＜参 考＞

全国草原の里市町村連絡協議会について

草原をもつ自治体間の連携と草原保全を進めることを目的として、2016年11月に発足しました。現在、24市町村により構成されています（現事務局：長野県小谷村）。2019年の定時総会において、「未来に残したい草原の里 100 選」の選定事業を進めていくことを決めました。

■ 本リリースに関するお問合せ

全国草原の里市町村連絡協議会 事務局 担当：丸山・澁谷

〒399-9494 長野県北安曇郡小谷村大字中小谷丙 131 小谷村教育委員会 社会教育係

Tel: 0261-82-2587 Email: sogen100@sogen-net.jp

メールアドレスへのご連絡を推奨しています。